

復興に向けて 「暗中八策」

町が現在置かれている状況は、原発事故が収束しない緊急対応期・避難期であって、明確に復旧・復興ビジョンを示すことが困難な暗闇の時期ではありますが、当面、町では喫緊の課題への対応策として8つの柱に取り組んでいくこととしました。町では、いわばこの「暗中八策」を幕末の荒波を乗り切ったように着実に実施していくとともに、さらに充実させてまいります。

今後とも、町の再生・創建にご協力くださいますようお願いいたします。

1 生活支援の充実

・災害への補償・賠償を確保(国等への要請)していくとともに、町としての相談窓口、相談体制を強化していきます。

【現在の取り組み】

国に対して賠償範囲の拡大を要請しています。

2 経済生産活動の支援強化

・町の基盤である農林水産業、商工業の従来仕事を継続できるよう支援します。

・国県の緊急雇用制度等を最大に活用して、町独自で就労の場を確保していきます。

【現在の取り組み】

国制度を活用した仮工場、仮店舗の立地調整、直接雇用の実施(約 50 名)

3 新たなコミュニティ創造

・県内外に避難して町民の方々の「絆」を再生するため、広報・広聴のネットワーク強化、避難所への情報伝達強化、避難所や仮設住宅の自治組織強化を図ります。

【現在の取り組み】

携帯サイトの開始・強化、メールマガジンの実施、浪江町民専用の総合コールセンターによる電話対応を強化(接続率8割(6月中旬時点))、町民へのお知らせ開始、広報紙の再開

4 教育・子育て支援の充実

・町民の教育環境を確保するため、浪江町立の小中学校を二本松市に設けます。また、放射線量についても線量測定など対策を講じていきます。

・災害により学力・体力格差が生じないよう、町として特段の支援を検討します。

・傷ついた心のケアを徹底するため、心理カウンセラーやボランティアなどを派遣していきます。

【現在の取り組み】

町独自による浪江町が設置する避難所と小中学校のスクールバス運営、給食費等の負担軽減

5 医療・高齢者福祉の支援

・従来受けていた医療情報や適切な介護体制の整備のための情報ネットワークを整備するため、全国の自治体や国への支援を強く要請します。

・デイサービスを受けることができる施設を新設します。

【現在の取り組み】

他自治体の協力について、片山総務大臣に要請。診療所の設置、デイサービス施設の設置準備。

6 環境モニタリングの実施

・浪江町全域の大気、土壌、水質の汚染度合いの調査を行い、生活、農漁業を主とする産業の再生を目指すための基礎データとする取り組みを開始します。

【現在の取り組み】

国に対する要請(町全体 2kmメッシュ、駅付近 100mメッシュで実施)、町独自によるモニタリングに着手。

7 社会インフラ復旧のための調査実施

・町民帰還の前に最低限のライフラインが復旧できるように、道路、上下水道、公共施設等の損壊状況、必要な対策等を調査・研究していきます。

・農業や漁業の基幹設備の復旧のための基礎調査を実施します。

【現在の取り組み】

環境モニタリングが本格実施されないため、現在は未着手。

8 行財政運営

・税込確保が困難なため、町に対する特別な国交付税配分を強く要請し歳入を確保していきます。

・徹底的にムダでムラな仕事を削減し、重要な行政サービスに特化していきます。

【現在の取り組み】

国に対して要請実施(5億円の特別交付税の交付、歳入欠陥債(国が100%補てん)の創設済)。